

アイヌ口承文芸における一人称

切替英雄

アイヌ口承文芸における一人称形を用いた語りについて、十勝地方のアイヌ語で語られたウチャシコマ（経験談）を例として述べる。この話は、アイヌにおける口承文芸の発生、それが作品として確立する以前の萌芽的な姿をきわめて明瞭に示すものである。

ʔírá mante haw : 2匹の仔熊を生け捕る

語り手 沢井トメノ (1906-2006)

採録 切替英雄

中川郡本別町上本別（フラツナイ）平成5年（1993）9月19日

ʔírá mante haw は、ʔucáskoma の一種

1. Siné ʔékasi^{*1} ʔírá mante.

一つの～ お爺さん ～が狩をする

数連体詞 名詞 自動詞

一人のお爺さんが狩をしました。

2. Sónno ʔírá mante ʔeʔáskay ʔékasi ʔán ru ne.

とても ～が狩をする …できる お爺さん ～がいる の です

副詞 自動詞 助動詞 名詞 自動詞 形式名詞 繫辞

とても狩の上手なお爺さんがいたのでした。

*1 ʔ [ʔ] は咳をするとき聞かれる閉鎖音の1種である。声門が閉じて作られる。日本語話者は、驚いたとき「アッ（危ない）」というが、このときも聞かれる（ʔaʔ）。また、ア行の拍の頭にも現れる（アイウエオは ʔa, ʔi, ʔu, ʔe, ʔo）。「顔」は kao と言われ、ʔ が明瞭に現れないのが普通であるが、「花王石鯨」は kaʔo:sekkeč となることが多い。「アッ、危ない」は ʔaʔʔaβunajʔ と言われる。青江美奈が1968年、「伊勢佐木町ブルース」のイントロで悩ましくこの閉鎖音を用いていたのは今もなお記憶に新しい。

3. Wa ʔirámante-ʔán kus ʔekímun payé-ʔán kor,
 …して 私が狩をする …するために 山へ 私が行く …すると、
 接続助詞 自動詞一人称形 接続助詞 副詞 自動詞一人称形 接続助詞
 で、私が狩をしに山に行くと、
-
4. wa ʔínkar-ʔán kor
 …して 私がものを見る …すると
 接続助詞 自動詞一人称形 接続助詞
 そして、ふと気が付くと
-
5. pón ʔeper, tu ʔéper
 ～が小さい 仔熊 二つの～ 仔熊
 自動詞 名詞 数連体詞 名詞
 幼い仔熊が二匹
-
6. ní ka ta ʔokáy [ʔokaiʔ].
 木 ～の上 ～に ～がいる
 名詞 位置名詞 後置詞 自動詞
 木の上にはいました。
-
7. Ní ka ta ʔokáy kus
 木 ～の上 に ～がいる …するので
 名詞 位置名詞 後置詞 自動詞 接続助詞
 木の上にいるので
-
8. ʔor wa ʔemésa-ʔán ahinne
 ～のところ ～から 私が登る …して
 位置名詞 後置詞 自動詞一人称形 接続助詞
 それから、木に登って、
-
9. siné saranip keraypo ʔa-sé kus
 一つの～ 編袋 しか 私が～を背負う …したので
 数連体詞 名詞 副助詞 他動詞一人称形 接続助詞
 編袋が一つしかなかったので
-

10. ?íkí?a saranip ?oske siné pon ?eper
 その～ 編袋 ～の中 一つの～ ～が小さい 仔熊
 連体詞 名詞 位置名詞 数連体詞 自動詞 名詞
 その袋をのなかに一匹の仔熊を
-
11. ?a-?ó tek, ?an-omáre tek
 私が～を～に入れる …して 私が～に～を入れる …して
 複他動詞一人称形 接続助詞 複他動詞一人称形 接続助詞
 入れて
-
12. caró ?a-siná tek
 ～の口 私が～を縛る …して
 名詞所属形 他動詞一人称形 接続助詞
 袋の口を締め
-
13. siné ?eper, kánna sine ?eper ?or en
 一つの～ 仔熊 もう 一つの～ 仔熊 ～のところ ～へ
 数連体詞 名詞 副詞 数連体詞 名詞 位置名詞 後置詞
 もう一匹のほうへ
-
14. payé-?án wa
 私が行く …して
 自動詞一人称形 接続助詞
 行きました。そして、
-
15. né?an pon ?eper ?anakne nékon ?a-kár tek
 その～ ～が小さい 仔熊 は どのように 私が～を捕らえる …して
 連体詞 自動詞 名詞 副助詞 副詞 他動詞一人称形 接続助詞
 その仔熊のほうは「どうやって捕まえて
-
16. turá ráp-an,
 ～とともに 私が降る
 後置詞 自動詞一人称形
 木を降りようか、
-

17.	ʔénkota	ʔénkota	ráp-an	somóki	cikanak		
	早く	早く	私がおりる	…しない	…ならば		
	副詞	副詞	自動詞一人称形	助動詞	接続助詞		
	早く降りなければ						
18.	néy	ta	kay	kamúy hápoho	ʔán	nankor	kus
	どこ	～に	か	～の母熊	～がいる	…するだろう	…するから
	名詞	後置詞	副助詞	名詞所属形	自動詞	助動詞	接続助詞
	どこかに母熊がいるだろうから」						
19.	ʔari	yáynu-ʔán	kus				
	…と	私が考える	…するので				
	接続助詞	自動詞一人称形	接続助詞				
	と考えたので						
20.	ʔené	ʔirámu-ʔán	hi	ʔisám	kus		
	——*2	私がもの思う	こと	～がない	…したので		
	副詞	自動詞一人称形	形式名詞	自動詞	接続助詞		
	思案に余ったので						
21.	cihótki	ʔan-amá	tek,	cihótki	ʔan-amá	tek,	
	ふんどし	私が～を脱ぐ	…して	ふんどし	私が～を脱ぐ	…して	
	名詞	他動詞一人称形	接続助詞	名詞	他動詞一人称形	接続助詞	
	ふんどしを解いて						
22.	ʔa-kór		cihotki	ʔari	pón	ʔeper	
	私が～を持っている		ふんどし	～で	～が小さい	仔熊	
	他動詞一人称形		名詞	後置詞	自動詞	名詞	
	そのふんどしで仔熊を						
23.	ʔa-siná	ʔahinne					
	私が～を縛る	…して					
	他動詞一人称形	接続助詞					
	しばって						

*2 ʔené と hi で文形式を挟み込み名詞句に変える。

24. [?]or wa [?]a-sé wa
 ～のところ ～から 私が～を背負う …して
 位置名詞 後置詞 他動詞一人称形 接続助詞
 それから、背負って
-
25. ráp-an a kus
 私が降りる …したところ
 自動詞一人称形 助動詞＋接続助詞
 降りたものだから
-
26. [?]a-kór pe kárikari.
 私が～を持っている もの ～がグルグル回る
 他動詞一人称形 形式名詞 自動詞
 金玉がグルグルまわった。
-
27. [?]A-kór pe kárikari
 私が～を持っている もの ～がグルグル回る
 他動詞一人称形 形式名詞 自動詞
 金玉がグルグル
-
28. cisúyesuye korkay
 ～がブラブラ揺れる …したけれど
 自動詞 接続助詞
 ブラブラしたけれど
-
29. [?]ákkari ta[?]án pón [?]eper [?]utar
 ～より この～ ～が小さい 仔熊 達
 後置詞 連体詞 自動詞 名詞 名詞的助詞
 そんなこと気にするより、この仔熊たちを
-
30. nékon po kay
 なんとか
 副詞 指小辞 副助詞
 なんとかして
-

31. [?]énkota turá kirá-[?]án somoki cikanak
 早く ~とともに 私が逃げる …しない …したならば
 副詞 後置詞 自動詞一人称形 助動詞 接続助詞
 すみやかに連れて下りなければ
-
32. hápoho [?]ék cik [?]ístoma-[?]án [?]ari
 ~の母 ~が来る …したなら 私がものを恐れる …と
 名詞所属形 自動詞 接続助詞 自動詞一人称形 接続助詞
 母熊がやってきて、恐ろしい目にあうぞと
-
33. yáynu-[?]án kus
 私が考える …したので
 自動詞一人称形 接続助詞
 考えたので
-
34. [?]or wa cihótki [?]an-amá tek
 ~のところ ~から ふんどし 私が~を脱ぐ …して
 位置名詞 後置詞 名詞 他動詞一人称形 接続助詞
 それから、ふんどしを解いて
-
35. siné pon [?]eper [?]a-siná tek
 一つの~ ~が小さい 仔熊 私が~を縛る …して
 数連体詞 自動詞 名詞 他動詞一人称形 接続助詞
 (二匹のうち)一匹の仔熊をしばって
-
36. [?]or wa ní turasi ráp-an ahinne
 ~のところ ~から 木 ~にそって 私が降りる …して
 位置名詞 後置詞 名詞 後置詞 自動詞一人称形 接続助詞
 それから、木を下りて
-
37. [?]or wano [?]oyúppa-[?]án, [?]oyúppa-[?]án.
 ~のところ ~から 私が走る 私が走る
 位置名詞 後置詞 自動詞一人称形 自動詞一人称形
 それから、走って、走りました。
-

38. **Ku-hóyupu** **ku-hóyupu** **kan** **ku-sán** **ahinne**
 私が走る 私が走る …しながら 私がくださる …して
 自動詞一人称形 自動詞一人称形 接続助詞 自動詞一人称形 接続助詞
 走って、走って山をくだって
-
39. **ʔiʔisoneka** **kamúy hápoho** **somó** **ku-núkar** **tek**
 幸いにも ～の母熊 (否定) 私が～を見る …して
 副詞 名詞所属形 副詞 他動詞一人称形 接続助詞
 幸いにも母熊の姿を見ずに
-
40. **cisé** **ʔor** **pakno** **kamúy** **tú** **p**
 家 ～があるところ ～まで 熊 二つの～ もの
 名詞 位置名詞 後置詞 名詞 数連体詞 名詞的助詞
 家まで熊2頭を
-
41. **ku-sé** **wa**
 私が～を背負う …して
 他動詞一人称形 接続助詞
 背負って
-
42. **ku-sán** **a** **ru** **ʔestap** **an** **ne.**
 私がくださる (完了) の こそ だ よ
 自動詞一人称形 助動詞 形式名詞 副助詞 繫辞 終助詞
 戻ってきたのです。
-
43. **ʔÁri** **siné** **ʔékasi** **háwki.**
 …と 一つの～ お爺さん ～が物語る
 接続助詞 数連体詞 名詞 自動詞
 と、あるお爺さんがお話しました。

考察

この話は、ある狩りの上手なお爺さん^{*3}が、2匹の仔熊を生け捕った実体験を故沢井トメノの母（清川ネウサルモン）に語ったものである。

アイヌの物語は、普通、主人公がみずからの経験を「一人称」で語るという形式をとる。一人称とは話し手を指す文法範疇であるが、アイヌ口承文芸学で用いられる一人称という用語には注意しなければならない。その一人称は普通、話し手、つまり語り手を示していないからである。

幼いトメノはこの話を母のそばで聞いていた。それから80年ほども過ぎて、1993年9月19日、トメノはふと思い出したその話を私（切替英雄）に語った。私は学生の前でそれをそっくり暗唱して聞かせることがある。とはいってもこの物語の「一人称」は「話し手」であるトメノや私を指してはいない。初めの「話し手」であるお爺さんを指している。だけどトメノや私は三人称で語っているのではない。やはり「一人称」で語ったのである。だから、お爺さんがトメノや私に憑依して語っているかのようにも、あるいはトメノや私がお爺さんを演じているかのようにも見える。少なくとも私は学生がそのような気分になって聴けるように語りを「演出」するよう心がけてきた。ただし1行目と2行目それに最終の43行目は三人称の語りで、導入部と結語である。これについては後で述べる。

^{*3} 実在の人物である。「沢井トメノは「おもしろい?ekasi [ʔekafi] だったの」と懐かしんでおられた。切替がその名を尋ねると、子孫に迷惑がかかるかもしれないと応え、明かされなかった。

一人称は接辞（接頭辞・接尾辞）で示される。一人称接辞には2つの系列（a-の系列とku-の系列）がある。

	主格	対格*4
a-の系列	?a- ~ ?an- / -?án ~ -an	?i-
ku-の系列	ku-	?én-

「私は狩りをする」は、物語では ?irámante-?án であるが (-?án は a- の系列)、日常の会話では ku-?íramante となる。また、「私は～を背負う」は物語で ?a-sé となり、日常会話で ku-sé となる。この物語では最終部分（38行目以降）で突然 ku- の系列が現れ、以後その人称表示が終わりまで保たれる。通常はこのような交替は起こらない。なぜ交替したか、その理由ははっきりしない。トメノは3行目以降、アイヌ口承文芸の伝統にしたがって物語を語り始めたが、語っているうちに最初の談話の場面（お爺さんがネウサルモンとトメノに語った場面）が記憶の中でより具体的かつ鮮明となり、それを表出するため、実際にお爺さんが使った ku- の系列に切り替えたのかもしれない。しかし、そもそも最初の話し手であるお爺さんが a- の系列を用いたか、ku- の系列を用いたか、確実に判断できる手がかりは今のところない。

また、口承文芸作品に表題を定めるという習慣は、アイヌにはない。上に掲げたものは便宜的に私がつけたものである。

なお、通常の語りでは1、2行目のような導入もない。したがって3行目最初の wa もない。wa は談話の途切れを埋める働きがあるもので、1、2行目がなければ不必要である。物語は、

*4 この物語では、対格形は現れない。

ほとんど前触れもなく唐突に始められる。それがアイヌの語りの伝統である。結語も特でない。

アイヌ語の動詞は自動詞（一項動詞。主語だけをとるもの）と他動詞（二項動詞。主語と目的語をとるもの）に截然と分かれる。他動詞の中には目的語を2つとるものもある。これを他動詞と区別して複他動詞（三項動詞）と呼ぶことがある。また、主語・目的語をとらない動詞も少数だがある。これは無主語動詞（零項動詞）と呼ぶのが適当であろう。

人称語幹

自動詞	ʔirámante	～が狩りをする
	ʔínkar	～が見る
	rán / ráp	～が降りる (sg. / pl.)
	ʔoyúpu / ʔoyúppa	～が走る (sg. / pl.)
他動詞	nukár	～が～を見る
複他動詞	ʔomáre / ʔó	～が～に～を入れる (sg. / pl.)
無主語動詞	síran* ⁵	時がたつ

一人称形（物語）

自動詞	ʔirámante-ʔán	私は狩りをする
	ʔínkar-ʔán	私は見る（視力を働かす）
	ráp-an	私は降りる
	ʔoyúppa-ʔán	私は走る
他動詞	ʔa-nukár	私は～を見る
複他動詞	ʔan-omáre / ʔa-ʔó	私は～に～を入れる (sg. / pl.)* ⁶

*⁵ この語は物語には現れない。

*⁶ （複）他動詞の複数形は目的語が指示するものに複数の観念が含まれているときに用い

一人称形（会話）

自動詞	ku-ʔíramante	私は狩りをする
	ku-ʔínkar	私は見る（視力を働かす）
	ku-rán	私は降りる
	ku-hóyupu	私は走る
他動詞	ku-núkar	私は～を見る
複他動詞	ku-ʔómare / ku-ʔó	私は～に～を入れる (sg. / pl.)

物語において、動詞（人称語幹）と一人称を示す接辞（接頭辞・接尾辞）にはさまれた声門閉鎖音ʔはアクセントのない音節で脱落する。

自動詞の一人称形は接尾辞 -ʔán をとる。

子音で終わる1音節の自動詞（ráp「降りる」など）では、この接尾辞はアクセントを失い、したがってʔが脱落する。ráp-an。これは rá|pan と2音節となる。

また、単数 (sg.) と複数 (pl.) を区別する自動詞では、人称語幹の複数形が用いられる。ʔoyúpu-ʔán, rán-an とはならず、ʔoyúppa-ʔán, ráp-an となる。

（複）他動詞は、接頭辞 ʔa- をとる。しかし、人称接辞と人称語幹に挟まれた声門閉鎖音ʔはアクセントのない音節で脱落し、その代わり -n- がはさみこまれる。この場合を ʔan- と示す。ʔan-omáre は ʔa|no|má|re と4音節になる。

会話での一人称表示に用いられる ku- は人称語幹のアクセントの位置を変える。ku- から数え始めて第2音節にアクセントが現れる。アイヌ語の単語は第1音節が開音節なら第2音節

られる。したがって、物語11行目のʔa-ʔóは言い誤り。

にアクセントがくるのが原則である（前表に現れる無主語動詞 *síran* は例外の一つ）。したがって、*ku-* が付いた形は一つの単語らしいまとまりのある体裁となる。

一方、*a-* の系列のうち主格形は多くの例外を生む。

1. 一語の中にアクセントが二つ現れる。ʔirámante-ʔán「私は狩りをする」
2. 開音節始まりの語の第1音節にアクセントが現れる。ráp-an (rá|pan)「私は降りる」
3. 第3音節にアクセントが現れる。ʔan-omáre (ʔa|no|má|re)「私は～に～を入れる」

アイヌ語十勝方言の声門閉鎖音 ʔ には由来を異にする2つのものがある。古い時代、十勝方言を生むもととなったアイヌ語の一方言でアクセントのない音節の声門摩擦音 *h* が ʔ に変化するという一つの事件が発生した。したがって、十勝方言では同じ ʔ でもかつての *h* の代わりに現れた ʔ と、もともと ʔ であったもののふた色があることになる。たとえば十勝方言の ʔomáre「入れる」に対応する胆振方言の語はやはり ʔomáre であるから、十勝方言の ʔomáre の ʔ はもともからのものである。一方、十勝方言の「走る」は ʔoyúpu / ʔoyúppa であるが、胆振方言では hoyúpu / hoyúppa であって、胆振のほうが本来の形を継承している。だから十勝方言の ʔoyúpu / ʔoyúppa の ʔ は *h* に由来するものである。ところが、*ku* がつくるとアクセントが前に移動するため、当該の音節がアクセントを持つようになり十勝方言を生むもととなったアイヌ語の一方言においてもこの場合 *h* は消失しなかった (*kuhóyupu*)。一度脱落した *h* が *ku-* がつくことに

より復活したかのようにみえるが、そのように考えるのは誤りである。もとの形が kuhóyupu であって、アクセントのおかげで十勝方言でも、もとの h が保持できたと考えるべきである。
*kuʔóyupu という形は、言い誤りでもしなければ、史上一度も現れなかったに違いない。